

十小だより



令和7年度12月号 No. 633

令和7年11月28日発行

武蔵村山市立第十小学校

校長 今井 一馬

【教育目標】

－くすの木のように優しくたくましく－

- ・やる気いっぱい（自分で考える子）
- ・笑顔いっぱい（自分も友達も大切にする子）
- ・力いっぱい（丈夫でたくましい子）

【<http://www.city.musashimurayama.lg.jp/school/mmced10s/>】

特別活動で育てたい力

特別活動主任 泉 裕樹

今年度、十小では「たてわり遠足」、「十小夏祭り」、「運動会」、「展覧会」など、多くの行事が行われてきました。

これらの行事に関わる活動や、学級での学級会などの話し合い活動は、特別活動という学習領域となっています。

この特別活動は、他の学習と比べて、周りの友達とより密接に関わりながら活動することが多くなります。そのため、考え方の違いによる意見の衝突や、予期せぬトラブルに遭遇することも多くなります。さらに、学年が上がると自分たちの学級・学年だけではなく、他学年や学校全体のことを考えて行動することが求められます。集団や社会の一員として、立場の違う周りの人とどのように関わっていくかということを考えて実践して行ってほしいと思っています。

これまでのたてわり活動では、リーダーとしてたてわり遊びの計画を立てるのは6年生だけの仕事でしたが、昨年度から、5年生もリーダーとして遊びの計画を立てる機会を複数回作っています。

グループの名前や集合場所に用意するグループ表示なども、6年生が一生懸命作ってくれました。力が入った素敵なグループ表示ができています。



たてわり遠足では、上の学年が下の学年の子のことを考えて、どうすれば楽しく過ごせるかを考え、計画することができていました。下の学年の子供たちは、「自分たちのためにやってもらったこと」を心の糧にして、自分たちが高学年になったときに「こんなことをやってあげよう」という理想像ができていきます。今後は、この遠足で培った関係性を日常の学校生活にも広げていくことが重要です。廊下ですれ違ったときの挨拶や、掃除の時間など、学年を超えた関わりの中で、互いに認め合い、助け合う姿が自然と見られるようになることを期待しています。

運動会や展覧会では、時間をかけて練習や制作に取り組んできた成果を披露することができました。学校行事での体験は、友達と力を合わせて取り組むことで、充実感や達成感を感じることができ、本番だけではなく、行事までの過程の事前学習や練習、さらに終わった後の事後学習も含めて、それらの行事の意味を引き出せるよう準備をし、子供たちに活かしていくことができるようにしたいと思います。2学期の大きな行事は終わってしまいましたが、御家庭でも、行事を通して成長した点などについて話し合ってもらえると、子供たちの自信や次への目標にもつながっていくと思います。

